

【邑楽町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

群馬県では、新・群馬県総合計画において、「群馬の環境を生かした教育×デジタルを活用した新しい教育＝群馬ならではの新しい学び」の確立により、始動人（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持つ人）育成を目指している。

また、邑楽町は「邑楽町第六次総合計画 後期基本計画」において、ICT環境の充実と情報活用能力の育成を施策の1つとして掲げている。

これらの施策を基に、児童生徒自身が学びを自己調整し、個別最適かつ協働的に学ぶことで、主体的・対話的で深い学びが実現した始動人が目指す学びの姿である。

2. GIGA 第1期の総括

文部科学省の「GIGA スクール構想の実現」に基づき、令和2年度から令和3年度にかけて管内小中学校6校の児童生徒に対して計1,888台の1人1台の学習端末（Chromebook）の整備を完了した。また学校周辺の無線インフラとして、町立図書館や公民館、町民体育館も校内と同様のWi-Fiネットワーク環境の整備やモバイルルーターの貸し出しも実施することで、児童生徒が学校外からのアクセスを円滑に行える環境を整え、端末の持ち帰りおよび自宅での学習を可能にした。

学習支援としては、学級内など端末を使って自分の考えをまとめクラウド上で共有する授業支援ソフトウェアを導入し、さらにその様子を電子黒板を用いることで、授業における教職員と児童生徒の全体で活用することができた。また児童生徒一人一人の理解度にあわせて問題を出すAI型のデジタル支援ソフトを導入し、ICTを用いて課題の配布・提出や主体的な学習に活用できる機会を増やした。

課題として見てきたものとして、以下の点が挙げられた。

課題	改善案
●同じ教室内での同時インターネット接続や校舎の限られた時間帯・場所などで端末の繋がりにくい状況があった。	学校と連携をして詳しい状況を確認し、実際に学校現場を訪れて簡易帯域測定や保守管理者と連携することで原因の発見と解決を目指す。現在は児童生徒の端末の定期的な更新をすることで大きな支障は見られていないが、ユーザー体感調査を行い、ICT活用における課題の発見に努める。
●1人1台端末の故障率が高く、修理に時間がかかることがあった。	衝撃による画面の破損や外装の外れ、経年劣化による不応答などさまざまな故障が見られた。修繕を依頼した際に返却まで時間がかかることもあり、予備機での対応や管内小中学校の端末の再利用で余裕はない状況であった。GIGA第2期では、端末を保護する備品の購入や端末修理の保険の検討、各学校への端末の扱いに係る注意喚起をする。

<p>●教職員の端末の操作方法等に関わる習熟度に個人差があり、デジタル支援ソフトなどを有効に活用できない様子が見られた。</p>	<p>デジタル支援ソフト上での確認できる範囲では、教職員の活用状況に個人差があり、整備した環境を十分に利活用できてはいないところがある。そのため、デジタル支援ソフト側と連携し、研修の積極的な案内や情報主任の教職員などを通じて ICT 技術の活用を奨励していく。</p>
--	--

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

教職員が ICT 活用の目的を理解し、ICT 活用指導力を向上するための研修の機会を継続的に提供する。活用事例を積極的に教職員間で共有し、それを蓄積させることで、さらなる学びの向上を目指す。さらに、家庭での持ち帰り学習についても、事例の共有・蓄積により積極的な実施を推進する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

既に導入されているデジタル支援ソフトに加え、デジタル教科書等のデジタル教材をさらに効果的に活用してもらえるように図る。

(3) 学びの保障

現在、各学校において、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、不登校や体調不良により欠席した児童生徒に対して授業配信、日常の授業で端末を効果的に連絡ツールとして活用してもらうよう図る。不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援としても、多様な場面で ICT を活用していく。